

### 3 月度木曜例会 (2016/03/03)

本日のゲストスピーカーです。3年半前 IIN で初めての公開講座を開催した折に大好評を博した Anavian 美人母娘がなんとまた来てくださいました。お母様の Pouri さんはこれで2回目、Dalia さんは早、5回目のご登場です。世界的に有名なお家族のメンバーがこのように IIN に来て戴けるのはラッキーとしか言いようがありません。事前に前回、先々回の HP 資料を皆様にはお届けしておきましたのでペルシャに関する予備知識は充分だったでしょう。

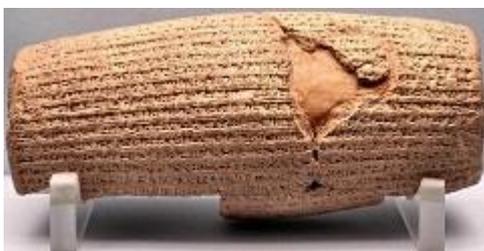


まずは Pouri さんの Santour 演奏からです。15 分間ですが悠久のペルシャを感じ取れたことと思います。連想するイメージはどんなでしたか？（美しい衣装をまとったペルシャ美人のダンス？砂漠に沈む夕日？）Santour に関する詳細は 2012 年 9 月の例会資料をご覧ください。演奏して戴いた曲名は？との質問がありましたが Isfahan mode の minor ということで特にタイトルは無いそうです。

Dalia さんのレクチャーを大別してみると 1) ペルシャとは 2) ペルシャにおけるワインの役割とは 3) ペルシャに関するあれこれ 4) Anavian 一家の活動、そしてメッセージと受け止めました。

#### 1) ペルシャとは

BC550 年 Cyrus the Great が Medes, Lidia, Babylonia を統合、初代ペルシャ国王となった頃を重点的に理解しましょう。大英博物館にある Cyrus-Cylinder には楔形文字ですでに human right が唱われています。28 の～スタン (state) を含みエジプトからインド、中央アジアまでそれはそれは広大なマルチカルチャー帝国を築き上げていました。アフガニスタン、ウズベキスタンなどはペルシャのひとつのスタンだったのですね。ゾロアスター教がベースでしたが異宗教



にも寛容で、言語も多様、楔形文字以外も OK,これだけ広大ならば文化も何もかもがマルチでした。現在のアメリカのスタイルは当時のペルシャと同じ発想ですね。既に 2500 年も前に実現されていたなんて。現代はグローバル化が進んでいますがマクド、スターバックス、KFC などマルチではなくモノカルチャー帝国と言えるかも？アケメネス朝の首都は Persepolis ですがそこで各スタンの長が互いに手を繋いでいる姿は平和そのものです。Cyrus-Cylinder と Persepolis の彫刻



ペルシャの語源は古代都市ファールサがギリシャ訛りでペルジャと言われペルシャに。ちなみにイランはアーリアン（アーリア人）からだそうです。ひとつの傘の下ボーダーレスの世界があったのですね。

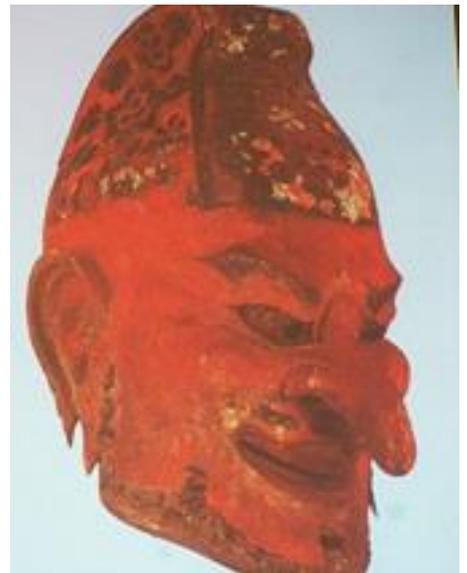
## 2) ペルシャにおけるワインの役割とは

ワイン絡みのレプリカ、骨董品、彫刻品様々なスライドの紹介がありました。



ワインを飲む盃、グラス、ワインを注ぐジャー、デキャンター、カラフルな衣装をまとってのパーティ、酔って真っ赤な顔をしたペルシャ王のハッピードランカーマスク。全てがワイン絡みでした。なぜならワインを飲んだら酔って真実しか語らなくなるからです。神主がワインを捧げるのは悪魔、邪気を払うためとゾロアスター教での教えですから。でも現在のイランではワインは禁止されています。皮肉なことにワインが悪魔、邪気とされているのです。ところが東京にイランワインを売ってくれるお店がありますよ。

シランズワインご存知ですか？古代の首都でしたがワイン発祥の地とも言えるモノでそこからオーストラリア、インド、カリフォルニアなど世界各国に広がりました。



## 3) ペルシャに関するあれこれ

- シルクが東方からどのようにペルシャに？ 6C 中国のお姫様がコタン（現在は中国、かつてはペルシャ）に嫁入りしたとき持参、シルクロードの長年の交易を経てペルシャ柄が東方に逆流し日本の着物柄にまで影響がありました。

- お米について

イラン人はおこげが好き、日本の炊飯器は中国人も爆買いしていきませんがなんとイラン用おこげ炊飯器も大ヒット、多くのご家庭で愛用されています。（恐るべし、日本の炊飯器業界）ピラフはトルコからの献上品

お米は粘り気の少ない長米が良いです。特にバスマティライスがスイートで合います。エメラルド、ルビー、チェリー、ハーブ（七草）、人参ピラフなど数多くのレシピが



有りますが粘り気のある日本のお米はペルシャういろうにぴったりです。

写真はペルシャういろうとサフランピラフ。現在のイラン北方カスピ海側では緑豊かでお米も出来ますが南方は砂漠、innovation とは砂漠の地下水を如何に吸い上げるか、の意味でもありました。イランにも年越し蕎麦有ります。でも長いまますすらず切って食べます。

- 500 年前の音楽スコア



#### 4) Anavian 一家の活動、そしてメッセージ

Dalia さんが 10 歳の時お母さんが“みんなのペルシャ語”

ペルシャ語の会話辞典を自費出版しました。また浜松楽器博物館設立時シルクロードコレクションをプロデュースしたりもしました。ペルシャ錦館、井上靖記念館に関する活躍など詳細は下記 web を参照ください。 [www.anavian.jp](http://www.anavian.jp)

21 年ぶりにイランに帰国、考古学博物館内には展示品もなくガラガラ状態でした。イスラム支配下ですが先生は生徒たちにダブルスタンダードの教育をしてきていました。

#### Q&A

- 水路（カナート）について。山から砂漠地方までとても長いし、穴も深くなると思うのですが、いったいどんな技術なのか。また塩分を含む理由は？

→3000 年前頃からすでに 50,000 程のカナートが存在していた。農業用にどのように使われていたのかははっきり覚えて無いが、有史初の冷蔵庫としての水冷機能もあった。氷を集めて水路の穴へ放り込んだりして冷やした。これらの事は日本人が書いて本「イランのカナート」にも紹介されている。とても研究内容が興味深い本で水路の詳しい事も絵入りで書かれている。

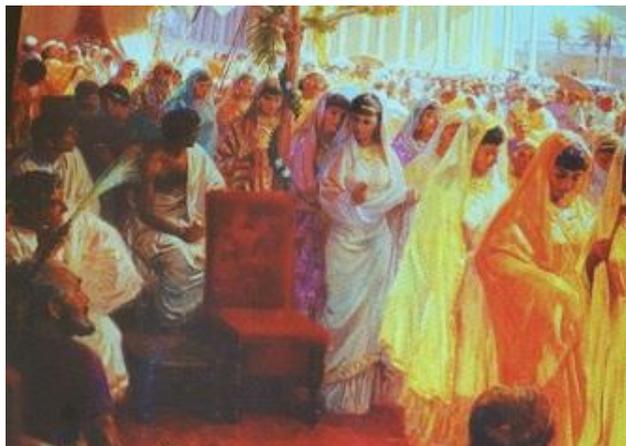
塩分については、山からの水はミネラル、水素、酸素などを含み、甘味もあり、「王の水」とも言われて、地球の土質のせいで、あちこち流れてる間に成分が変わり、硬水、軟水、などなど様々に変化し、砂漠まで流れる間に塩分が濃くなると思われまます。塩分を含んだ水でも育つ麦もある。

- プーリさん、あなたにとって音楽とは？

→言葉です。平和であり、喜び以上のものであり、心と心で呼応する、、、音楽＝ペルシアそのものものです。

- ダリアさんのマルチタレントは一体どのように獲得されたのか？

→環境のせいかも。ほぼ国籍はイスラエル人とも言えますが、実は母は飛行機に乗っている時に産みたかったのです。でもテヘランで生まれました。最初の国籍は空ですかしら？よって私の最



初の言葉はペルシア語で、2 歳半の頃イスラエルに移り住みヘブライ語なので母国語はヘブライ語と思う。それから又テヘランに戻ったり、、、日本に住んでいる時は日本人とは大阪弁の日本語、母とはペルシア語、父とはヘブライ語、学校では英語。大阪弁が好きで友達にも広めようとして先生に怒られて罰金を取られる程に。私の母国語は何になるのか。混乱した。何語が一番心地よいのか。10 代の頃は大阪の街をぶらつく

様な不真面目さん？だったが人より 10 倍努力もした。12 歳でテヘランを出て以来ふと母国を失った様な気になり、卒業後母国探しで 21 年ぶりにテヘランに帰ってみた。華やかな国から黒白の国へ。

建物も空も黒の中にあるように思えた。静かな声で笑えとさえ言われた。100 倍の苦勞だった。古き良き文化は失われていた。

失われた文化や遺物を外国人達が、日本人達が掘り起こしたり保存したりしている。その人たちも年老いて来た。私がそれを引き継いでイランから日本へと繋がないといけない。私の使命だ。最後の人になるかもしれない。使命であり情熱である。人々を招き紹介し続けたい。

- ダリアさん、イラストがとても可愛いですね。5,000 年も前に女性に産休を与えていた文化の進んだ国が、今では女性が外で笑うのを禁じているのは残念。古き良き時代のイランを世代に渡って伝え残して行くという使命を是非続けて下さい。

- プーリさん、楽譜に関してですが、文字は右から左に書かれているのに、楽譜はどのように？ 古代の楽譜は円形でしたが、それは？

→西洋風に左から右へ、です。円形の楽譜は古代に使われていたと言うのをダリアが本から見つけたもので、現在は使われてないし、私も読めません。大阪音大では日本語で教えています。

- イランで、「おしん」がすごい視聴率を取っていましたが、日本以上でした、その理由は？

→おしんが耐えて耐えて一生懸命に働いて人生を乗り越えるところでしょう。1979 以降、イラン人は厳しい生活をしていて、それが彼らに共感を呼び、放送時間には通りに人が居ないような事にもなり、モハメッドの妻を祝う日のテレビ番組インタビューでも、国で一番重要な女性は誰かと聞かれた人が、思わずおしんと答えてしまい危うく逮捕されそうになりました。2001 年とかの帰国時にも、おしんは最後にどうなったのかと良く尋ねられた。放送が途中のまままで結末は知られていないのです。

- テレビでイランの電車で男女別れて乗っていたのを見ましたが

→そうです、日本みたいに女性専用車があります。バスも男が前、女は後ろに、です。奇妙な事ですが、何故か乗り物は分けて乗ります。プールも男だけです。女性が泳ぐとしたら黒い服を着てベールをしたままですから。ホメイニは、電気と水は無料にすると約束して尊敬されたが、ただしオイルは超高額になり、、、???

19 世紀の初め、パーラビー朝の始まり頃は女性の黒ベールが廃止され一気に近代化が進んだ。生活は、外目には保守的だが実生活では普通に男女混合だし、パーティも一緒に大いに騒ぐ。祖母は伝統的な正統的パーティをしていたが今は公共の場は保守的でその他はとても開放的だ。

Anavian さんの熱い思い十分に伝えていただきました。またいつかお願いしますね。

